

『経済学研究』（北海道大学大学院経済学研究院紀要）

投稿マニュアル

投稿の手順は別紙「投稿の流れ」を参照の上、期限を厳守ください

・原稿作成

1. 原稿は横書き一段とし、パソコンまたはワープロ(40 字 40 ないし 36 行)とします。本文、参考文献、脚注などの文章部分は Word で作成してください。図、表などは別建て(Excel が望ましい)にしてください。(PDF ファイルでの提出はできません。補助ファイルとしてお送りいただくのはかまいません) 原稿は Email にて担当者 (図書・紀要委員会, 山藤三陽印刷) までお送りください。文中で特殊な指定をしたい場合は、赤字で指定し、メールでご説明ください。
2. 原稿作成のポイントとフォントについて 本文は 10.5 ポイント。参考文献は 10 ポイント。図表の中の文字は 9 ポイント、注や出典は 8 ポイント、とします。(脚注の文字ポイントは下の 14. で書かれているようにしていただければ、文字ポイントを操作する必要はありません) 文章のフォントは MS 明朝 (英語、数字は Times New Roman) とします。章、節などのタイトル・図表タイトルは MS ゴシックとします。
3. 原稿枚数には、本文・図・表・文献リスト・脚注等の総てが含まれます。
4. 表紙は別建てにしてください。記入していただく内容は、(最終ページに見本あり)
 - ① 日本語タイトル (英文の場合は英語タイトル)
 - ② 英語タイトル (英文の場合は不要)
 - ③ 氏名 (英語表記も)
 - ④ 肩書 (正確な肩書を記入してください。名誉教授は「北海道大学名誉教授」と記入してください)
 - ⑤ 要旨 (500 字前後) (英文の場合は 100 語から 200 語)
 - ⑥ キーワード (5 個) *要旨, キーワードは HUSCAP への掲載のみに使用します。
5. 論文以外の原稿は、その項目 (<研究ノート><資料紹介>など) を上記表紙タイトルの左上部に、表示してください。
6. 本文目次は通常はつけませんが継続物の 2 回目以降では、前号までの目次としてつけても良いです。
7. 章・節・項・目のナンバリングは、原則
章=ⅠⅡⅢ, 節=1. 2. 3., 項=1.1 1.2 1.3 (あるいは (1) (2) (3))
としてください。
8. 句読点

①文章の句読点は(.)や(、)でなく、(。)と(,)を使用する。

②数式や引用欧文等の後に使用するときは(.)とする。

③表題に句点は付けない。

④見出し・小見出しの後には、句読点は付けない。

9. イタリックは、原稿作成時にイタリックで書いてください。

10. 本文中で少し小さい文字を用いたいときはその部分を赤字にし、ポイントを下げte記入してください。

11. 数式がはいる論文は必ず締め切り 1 カ月前に山藤三陽印刷にお知らせください。ソフトの種類により対応が異なります。現在 LATEX 方式には対応しておりません。

(Word で数式エディターを使ってください)

12. 外国の機関名で通常和文表記が用いられている場合は、和文で書き、カッコ内に英文および略称を入れてください。ただし、一般的な和文表記がない場合は英語表記とし、略称のある場合はカッコ内に示す。2 度目以降は略称のみの表記とする。

<例> ・和文表記があるときは農業開発公社 (Agriculture Development Board : ADB)。

・和文表記がないときは Agriculture Development Board (ADB) (逆も可)。

2 度目以降「農業開発公社」あるいは ADB。

13. 図、表

①文中の図、表を挿入したい部分に赤で図○、表○といれてください。

②引用図を用いるとき、写真製版にそのまま利用できる原図があれば、原稿提出時に添付してください。(本、雑誌の場合は山藤三陽印刷と連絡を取ってください)

③図や表は必ず本文原稿とは別にし、原稿の本文・参考文献の後ろにまとめてください。(ファイルは PDF ではなく**原典のソフト**で提出下さい)

④図、表それぞれに通し番号をつけ、題をつける。(当紀要では「図表」と表示しませんので注意して下さい)

<例> 表 1 ... , 図 1 ...

⑤出典がある場合は図、表の下に明記してください。注意書きがある場合は出典の下に入れてください。

<例> 出典 : ...

注 1) ... , 注 2) ...

14. 脚注

①本文に付ける脚注番号は上付、片カッコとする。

<例> word の場合は参考資料→脚注の挿入 (ページの最後)¹⁾

片カッコができない場合は 1 あるいは (1) でもけっこうです。

②脚注番号は章ごとに分けて、通し番号とする。

15. 引用文献

本文中に他の文献から引用した場合、脚注か、当該箇所の末尾に、引用文献の著者名と刊行年、頁を表記し、参考文献に列記する。

<例> ・ ...²⁾。 脚注とする
・ ... (豊田[2001b], pp. 12-15)。

16. 参考文献

順番はアルファベット順か五十音順にすることが望ましい。

<記述例>

単行本 日本語文献 石沢芳郎[2003]「ブッシュ政権の再選」『産経研シリーズ』No. 69, 産経研協会。

田原奈津子[1998]『イタリア経済の展開』 日本経済評論社。

外国語文献 Sukardi Rinakit[1998] *The Indonesian Military after the New Order*, Copenhagen : NIAS.

単行本所収論文 日本語文献 外山謙一[1997]「管理システムの現状と課題」 川口 雅編『現代経済システム』 福岡大学出版会。

外国語文献 Marciano, A. [2004] “The Historical and Philosophical Foundations of New Political Economy”, *The Elgar Companion to Economics and Philosophy*, Davis, J. B., et. al., eds., Cheltenham : Edward Elgar.

雑誌論文 日本語文献 青木昌彦[2003]「比較制度分析の可能性－転換期にきた日本経済をどう考えるか」『経済セミナー』 No. 580, pp. 34-48。

外国語文献 Elliott, G. [1999] “Efficient Tests for a Unit Root When the Initial Observation is Drawn from its Unconditional Distribution”, *International Economic Review*, Vol. 40, pp. 767-783.

学位論文 日本語文献 高橋一朗[2004]「金融市場における投資家行動」 博士学位論文 (北海道大学)。

外国語文献 Fraser, N. [2004] “Stable International Environmental Agreements”, Doctor Thesis, Hokkaido University.

新聞等 日本語 『毎日新聞』, 2005.6.8。

片山 亘[2005]「京都議定書における排出権取引制度のデザイン」
<http://www.econ.hokudai.ac.jp/> 2013.15。

外国語 New York Times, Sept. 20, 1999.

17. 原稿の頁づけの順は、本文、参考文献、表・図と全部通しで番号を打ってください。

・ 校正

1. 執筆者の校正は 3 校までです(投稿が遅れた、初校での修正箇所が多かった、などのケ

²⁾ 豊田[2001a], pp. 55-70。

ースでは2校で終了する場合があります)。

2. 校正には朱筆を使い、校正記号は一般的なものを使用してください。
3. 校正によって文字の増減が生じる時は、まず同じ行、次に同じパラグラフ、と最小の範囲で調整するようにし、行の増減は極力避けてください。
4. 脚注番号を打った箇所が頁をこえてしまう変更や、注の文の増減になるようなこと、および、訂正による増減が頁の増減につながるようなことは、お控え下さい。

・その他

1. 各校のゲラはお手元に留めず、毎回新しいゲラと共に山藤三陽印刷に必ずお返しください。
2. 完成時、投稿者には、抜き刷りをお渡しします。50部までとしますので希望冊数を山藤三陽印刷までお知らせください(部数は10部単位です)。それ以上の部数を希望される時は、再校ゲラ返還時まで山藤三陽印刷にお申し出ください。ただし、この分の費用は自己負担です(研究院内のメンバーは、御自分の研究費や科研費から支出することができます)。印刷が終わってからのご希望にはそえませんので、くれぐれもご注意ください。
3. 本誌に掲載した論文等は、HUSCAP(北海道大学学術成果コレクション)に収録されます。
4. 投稿された原稿は出稿前の修正は行いませんので、各位が書式をお守りください。

付：表紙頁は図書室と山藤三陽印刷にお送りください。表紙まわり作成とHUSCAP掲載時に必要となります。(送らなければ紀要が刊行できません。HUSCAPに要旨やキーワードが掲載されません。両者からは請求しませんのでお気を付けください)

2021.3.1 改訂

※メール宛先一覧

fukayama@econ.hokudai.ac.jp (図書・紀要委員会)
economic-studies@sando-sanyo.co.jp (山藤三陽印刷)
eco@lib.hokudai.ac.jp (図書室)

*学術専門職堤さんは紀要には携わっておりません。お問い合わせなどは「図書・紀要委員会」かゲラが出てからは「山藤三陽印刷」にお願いいたします。

日本語タイトル（副題は 2 行目に）

Title (English)

氏名 Name (English)

肩書 (your title) 日本語のみ（正確に=correctly）

（例：北海道大学大学院経済学研究院教授，
北海道大学大学院経済学院博士後期課程 1 年，
北海道大学名誉教授，北海道情報大学情報経営学部）

要旨 abstract（500 字前後）（English 100~200word）

キーワード keyword（5 個：five）